

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0023
所在地 東京都新宿区西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 — 081
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①	小出 正治		福祉、経営	H0702006
	②	宮川 美香		福祉	H1701049
	③	山村 弘		福祉、経営	H0902065
	④	米田 太郎		福祉	H1001023
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	しきの森保育園				
事業所連絡先	〒	182-0034			
	所在地	東京都調布市下石原二丁目54番1号			
	Tel	042-426-7151			
事業所代表者氏名	小林 政洋				
契約日	2025 年	8 月	1 日		
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年	10 月	3 日		
利用者調査結果報告日	2025 年	12 月	4 日		
自己評価の調査票配付日	2025 年	10 月	3 日		
自己評価結果報告日	2025 年	12 月	4 日		
訪問調査日	2025 年	12 月	10 日		
評価合議日	2025 年	12 月	10 日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目のほか、事業所と協議のうえ、独自の項目も設けて実施しました。 ・開始時には書面やポスター等で保護者の理解促進を図るほか、開始後にも提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配信・配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めました。 ・事業所に対しては、開始時の説明や補足資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮しました。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・「心身の調和的発達」を促す保育 ・「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 ・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 ・「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 子どもを尊厳のある人間としてきちんと向き合える人、いつもやさしい笑顔で子どもに無限の愛を与え、見守っていける人、そして子どものために自分を磨き、子どもたちとともに成長し続けることのできる人。 そんな人を求めています。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 法人理念を理解し、保育のプロとして子どもたちの日々の成長、自主性を促す環境を整え受容的に関わること。また、専門性向上のための自己研鑽を怠らない事。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯66(在籍児童数81)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

81

利用者家族総数(世帯)

66

共通評価項目による調査対象者数

66

共通評価項目による調査の有効回答者数

49

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

74.2

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」57.1%・「満足」40.8%の計97.9%と高い値で、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「急な残業等への配慮」など、全17問中13問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「異年齢合同のため、小さい子への思いやりや年上としての振る舞い方などが子ども同士の関わりの中で育まれ、リズム・造形・英語などさまざまな活動を探り入れ、それぞれの好きなことを見つけられるようにしてくれており、園内も明るく清潔でよい」「落ち着いた雰囲気、のびのび過ごせる空間づくりがよく、プログラム・遊びが豊富で、子どもに寄り添ったサポートをしてくれ、先生方がとても丁寧である」「先生方皆さん親身になって子どもを預かり、天気の良い時は隣の公園でのびのび遊ばせてくれ、アプリでの連絡帳やおむつのサブスクなど、新しいことも早く採り入れてくれる」「子どもの意思を尊重し、のびのび育ててくれる」などの、さまざまな称賛・感謝の声が寄せられている。要望などとして主に見られたのは、職員の体制や日常の保育内容、子どもや保護者への対応、日常のコミュニケーションに関することなどである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	47	2	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.9%、「どちらともいえない」が4.1%となっている。 自由意見には「英語の活動など、家ではしていないことも学べてよいと思っている」の1件が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	47	2	0	0
「はい」が95.9%、「どちらともいえない」が4.1%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	45	1	1	2
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が2.1%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見は5件で、「家庭ではなかなか離乳食が進まなかったが、先生方が進めてくれたのは感謝である」「家では作れない食事が出て、おいしそうで大変助かる」「多めがいい」「少なめがいい」など、子どもの要望を聞いてくれている」のほか、要望などとしては、果物の提供や食事内容の情報共有に関する声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	39	7	3	0
「はい」が79.6%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は4件で、「苦手な虫にも興味を持つようになり、感動した」のほか、要望などとしては、戸外活動等の充実に関する声が見られた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	37	0	0	12
有効回答者37人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「急なお願いも事情を聞いてくれ、丁寧に対応してくれた」の1件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	38	7	3	1
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が14.6%、「いいえ」が6.3%となっている。 自由意見は5件で、感染症対策や保育中の安全管理等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	2	0	1
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%となっている。 自由意見は2件で、「保護者が参観する行事については、いつも土曜日にしてくれる」「日程自体は問題ない」のほか、要望などとしては、行事の連絡などにおける配慮に関する声が見られた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	7	1	0
「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は5件で、「先生方は接しやすい方たちばかりなので、相談しやすい」のほか、要望などとしては、職員の体制や対応に関する声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	41	5	2	1
「はい」が85.4%、「どちらともいえない」が10.4%、「いいえ」が4.2%となっている。 自由意見は9件で、「先生方がいつもきれいに整えてくれていて、子どもも片づけの習慣が身についている」「部屋での排せつや嘔吐があった際は丁寧に消毒してくれている」「基本的に清潔で整理されている」「清掃はしてくれている」のほか、清掃・整理整頓や衛生管理、設備面について、気になる点や要望を挙げる声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	45	3	0	1
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見には職員の服装について、気になる点を挙げる声が1件寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	4	1	1
「はい」が89.6%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見は4件で、「看護師の方がいるので安心できる」「職員の対応には満足である」のほか、ケガや体調不良等の把握・対応や保護者への伝達について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	6	0	16
「はい」が81.8%、「どちらともいえない」が18.2%となっている。 自由意見は5件で、「きちんと悪いことは怒ってくれるので助かる」「大きなトラブルはないようで、不信感を持ったこともない」のほか、子ども同士のトラブル等の把握・対応や保護者との情報共有について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	1	1	1
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が2.1%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見として、子どもの心情に寄り添った対応について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	36	4	0	9
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見は1件で、プライバシー保護等への配慮について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	37	9	1	2
「はい」が78.7%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見は5件で、「お迎えの時にその日の様子は聞く」のほか、要望などとしては、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等の保護者への説明に関する声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	38	6	0	5
「はい」が86.4%、「どちらともいえない」が13.6%となっている。 自由意見は1件で、要望などとしては、不満・要望等への対応に関する内容が見られた。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	3	2	28
「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が9.5%となっており、「はい」の値は前回（2022年度・54.1%）から改善されている。 自由意見には、外部の意見窓口の周知に関する内容が1件寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人共通の保育の特色や、その基盤となる理念・目標等を、保護者に周知させている 保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」のもとで、子どもの心身の調和的発達や基本的生活習慣の育成などの5つの保育目標を法人共通に掲げ、基調とする「営める」ことや異年齢の関わり、表現・食育などの諸活動や、子どもが自ら遊びや活動を選び、自発的に取り組める環境の設定など、系列園共通の保育の柱を定めている。保護者にはこれらを見学・入園時に説明するとともに、園児の日々の生活と育ちを、保護者会やさまざまな発信物を通じて発信し、「公開日」と題した保育参観も設けるなど、継続的に共通理解を深めている。	
	法人の理念・目標等や、運営・保育における方針について、組織内の共有を図っている 職員には入職時に、上記の法人共通の理念・目標等の理解と実践を促すとともに、その後のさまざまな実践に根差した法人の研修や、日々の園内の会議での話し合いと振り返りなどを通じ、実務を通じて理解が深まるようにしている。また年度開始時の会議でも、園長が理念等の再認識を促すほか、職員同士で常に感謝の気持ちを持ち、互いに尊重し合うことや、それぞれの多様な経験・強みを活かし、園全体で改善意識を持って運営を行うこと、子どもにはあらゆる場面で優しさと愛情を持って接することなど、現場に求める心がけを発信している。	
	園運営における意思決定の手順や、保護者への各種連絡の仕組みが整えられている 日々の園運営においては、園長・主任及び各フロアリーダーを経営層として、各サブリーダーも加わって行われるリーダー会議や、主に常勤者が集う毎月の職員会議で、内外の状況や法人の方針等も踏まえ、必要な意思決定や情報共有を行う仕組みとしている。また各階で原則毎週行うフロア会議で、保育の活動・環境や子どもへの援助、フロア・子どもの状況などについて、情報共有と振り返り、必要な配慮や改善の検討を随時行っている。また保護者への各種重要事項の周知は、アプリでの配信を基本に、案件に応じ書面の掲示・配付も併用して行っている。	

2			事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	カテゴリー2
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
園・法人の各単位で、運営や重点課題等に関する各期間の計画が作成されている 年度の事業計画に、園・組織運営や保育の充実・質の向上、食事及び安全・保健衛生、人材育成、保護者支援、施設整備・財務及び当園における年度の諸課題について、年間の「重点事業」を定めている。また法人の「中長期・短期事業計画」に、内外の状況を踏まえた「最重要課題」と取組事項、目標水準や達成の時期などが定められており、同計画は今年度更新され、系列各園に周知されている。園単位でも今年度までの5か年を期間とした計画に、作成当時の状況を踏まえた各年度の重点課題が列挙されており、来年度以降に向けた計画の更新を想定している。		
実務に関する計画作成・実行や、保護者の意向の把握のための仕組みが整えられている 上記のほか、事業計画中の保育をはじめとする各業務分野で、年間及び各期間の実務計画に、計画の期間に応じた取組内容や目標・ねらい等を定め、必要な進捗確認のもとで実施している。上記を含む園単位の各計画の立案においては、関係者の意向も課題抽出の参考としており、保護者の意向は、行事後の感想収集のほか、保護者会での傾聴や第三者評価受審時の利用者調査などから把握している。また今年度から、評価受審年度以外にも法人がアンケートを実施し、各園で満足度の評価や意見・要望等を収集する仕組みが導入されている。		
職員の意向の把握や事業環境に関する情報収集、経営状況の管理の仕組みを整えている 職員の意向は、前述の各会議や個別に設ける面談、日頃の業務内外の会話などから把握している。また地域の子育て家庭の声を、見学の受け入れや園庭開放等の地域向けイベントの際に収集するほか、調布市の私立保育所園長会や保育所・幼稚園・小学校の連絡会も、地域の子育てや保育・教育、施設経営等に関する情報収集の機会としている。関連する政策・制度等の情報は、左記の市の園長会や法人内の系列園園長会、自治体・法人の各種発信等から収集し、予算の作成や収支その他の管理は園長が担い、毎月の法人内の園長会で系列各園や法人と共有している。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ3
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリ-3の講評		
法人の保育者に求める規範・倫理について、入職以降のさまざまな啓発がなされている 入職者には法人の研修により、勤務上の各種ルールや接遇・身だしなみ、守秘義務の厳守などの従業員としての各種服務規律のほか、保育の基調とする、子ども一人ひとりの存在そのものを肯定的に受けとめ、「誉める」ことなどについて、理解と実践が促されている。また常勤者には毎年度の自己評価を課し、一般層は「報・連・相」や生活習慣、規範意識や法人の保育における基本的な種々の所作、園長・副園長は管理者としての能力・姿勢等について、振り返りを促している。現場での子どもへの虐待的言動の排除についても、定期的な内省がなされている。		
園と家庭での虐待等の防止や、苦情を含む保護者の意向への適切な対応に努めている 上記の子どもへの虐待的言動の排除に関する内省として、全職員が法人共通のチェックリストをもとに、自身の日頃の子どもへの言動を年4回振り返っており、職員・フロアの各会議でも、子どもへの接遇等について自戒を促している。また家庭での虐待等への対応に備え、必要の際の通報・連携先機関を定め、法人作成の「虐待防止マニュアル」を常備するほか、11月の虐待防止推進強化月間に合わせた啓発もなされている。苦情解決制度や玄関の「ご意見箱」、日々の交流等を通じた保護者の意向の把握や、案件に応じた適切な対応にも努めている。		
園の情報や機能を積極的に地域に提供し、保育・教育施設間の交流にも加わっている ホームページ・SNSや調布市の各種媒体、園の2か所の門扉での掲示などを通じた情報発信、実習生や地元の中学生・隣区の特別支援学校からの職場体験生の受け入れなど、地域に開かれた園であるべく努め、市の私立保育所園長会や保・幼・小の連絡会を通じ、保育・教育施設間の交流・連携にも参画している。また入園前見学で来園する未就園家庭には、寄せられる育児相談等に随時対応しており、夏祭りも地域に開放するとともに、8月からは土曜の園庭開放を毎月行っている。地域により根づき、親しまれる園であるべく、交流・支援の拡充も想定している。		

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
保育中の種々の事故を防ぎ、子どもの安全を守るため、さまざまな対策を行っている 登園後や散歩の各過程での人数確認の徹底など、園児の置き去り・見失い防止対策や、子どもの睡眠時の状態確認・定期的なAED訓練の実施等のSIDS対策など、重大事故を防ぐための日常的な取組を行っている。また子どものケガ等の事故は、原因・防止対策等の検討と、フロア内または組織内への周知を行うほか、看護師が月ごとに集計し、有意な傾向が見られた場合は会議で注意を促している。種々のヒヤリハットも同様に検証・共有がなされており、法人が随時発信する系列各園の事故等の事例は、園長・看護師が確認し、必要に応じ職員に到達している。		
災害・不審者対策や保健・安全に関する各種啓発など、安全の向上に努めている 災害・感染症発生時の各BCP(事業(業務)継続計画)を作成するほか、毎月の防災訓練では地震・火災を想定し、子ども・職員の動きや保護者への子どもの引き渡し手順等を確認している。また不審者対策訓練を年2回実施するとともに、敷地内各所へのカメラの設置と事務室でのモニタリングを行い、室内の記録映像はケガ等の検証にも活用している。毎月の職員会議では、看護師が時季ごとのリスクも踏まえた保健・安全面の注意喚起を行い、嘔吐物処理手順の確認も毎年度実施しており、消防署による全職員対象の心肺蘇生・AED訓練も毎年度設けている。		
各種情報の利活用と漏洩の防止や、関係者への啓発・説明の仕組みを整えている 各種事務・通信などの電子化や系列園間のクラウド上での情報共有など、情報の利活用の仕組みを整えるとともに、重要書類の施錠管理、情報端末・ソフトウェア類の各種セキュリティ設定など、情報漏洩の防止に努めている。また法人の各種規程・マニュアル等に、情報の管理・利用に関する原則や実務上の遵守・禁止事項を定め、職員には入職時の啓発等により、これらの徹底を求めている。実習生等には受け入れ時に守秘義務厳守の誓約を確認している。保護者には入園時に、肖像を含む各種情報の利用目的などについて、説明と同意確認を行っている。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
採用活動は法人全体で行い、園の状況に応じた配置や労働環境の整備にも努めている 法人の担当委員会を中心に系列各園が協力し、職員の募集・採用を行っている。求人は法人サイトを含む各種媒体や養成校・関連業者、在職者の紹介など多様な方法で行い、配属・異動は、法人が各園の体制と各職員の希望・キャリア形成等を勘案して決定している。園内では各階の保育の状況を踏まえ、個別の意向と適性・経験、それらのチームとしてのバランス等を考慮して人員を配置し、ほぼ毎日フロア間で保育者1名を入れ替え、各人が園全体の子ども状況を把握できるようにしている。各種労務管理やストレスチェックなど、労働環境整備にも努めている。 個別の評価制度や法人内の多様な研修など、人材育成の仕組みが整備されている 一般層と園長・副園長の各階層で、自己評価と年度の振り返りを行い、次年度の目標と研修の受講予定を定める仕組みが設けられるほか、同一の項目による上司評価を人事などの参考とすることで、各人の処遇の向上と意欲の促進につなげている。また法人の保育の柱とする「誉める」保育について、系列及び提携法人の他園の視察と保育者間の話し合いにより、現場の実践の質と各人の知見・技術を高める研修が設けられ、その他にも階層別の研修や学識者を招いての全体研修、指導者来園によるオペレッタの研鑽など、法人内の研修の充実が図られている。 各職員の意向の把握や会議・委員会での課題解決など、組織の活力の促進が図られている 上記の個別の評価や目標は、園長が面談を通じて各人と共有しており、面談では非常勤者を含む全職員から、現状の課題・悩み等を把握し、必要な支援や助言に反映させている。また全体・フロアの各会議で、保育をはじめとする現場の諸課題に関する検討が随時なされるほか、環境美化・図書・給食などの各委員会を設け、職員主体の改善活動を促している。今年度は初任者から経営層までの各職階における、能力・職責や研鑽の指標を定めた「保育人材 キャリアパスモデル」が策定されており、園内では園長が職員に配付のうえ、説明を行っている。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度の事業計画では、職員間の情報共有の仕組みの強化や、組織内のコミュニケーションの活性化を図ることを「重点事業」の一つに挙げ、面談や各種会議、実際の保育現場での指導等により、各人の資質・職能の向上を促すこととした。当園での在職経験の浅い職員も少なくない中、その前年度は園児のケガやトラブル等が続いていたが、日々の業務繁忙や体制上の事情等により、話し合いの場の充実が課題となっていた。これに鑑み、まずは保育の基本である周囲の観察や気づきを大切にすること、それらを通じたチーム保育の効果的な推進を目標とした。 毎月の職員会議の名称を「保育カンファレンス」に改め、チーム保育や子どもの遊び・園外活動、「誉める」保育や安全衛生、保育体制など、月ごとにテーマを設けて話し合いを行うとともに、中間と年度末には振り返りの機会も設けるなど、職員間の対話を通じ、保育の質と組織のチーム力の向上を図った。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 経営層は取組の成果について、保育カンファレンスとして意識的に話し合いの時間を持つことにより、各職員の保育に対する取り組む姿勢や、各階のチームとしての連携と課題解決に好影響がもたらされたと考えている。 今年度の事業計画にも、昨年度と同様に情報共有とコミュニケーション力の強化を重点事業に設定し、職員全体が集まる機会だけでなく、フロア会議等の場においても、保育の質向上に向けて話し合うこととした。また各職員が内外の研修で得た学びを、報告書の供覧だけでなく、会議での報告や、それを踏まえたグループ討議を通じ、より効果的に組織に還元させることも目指している。各会議での保育や子ども、安全衛生面などの現場の諸課題に関する話し合いのほか、障害児保育や系列園での「誉める」保育に関する実務研修、食事や絵本など、法人内外の研修に関する報告は、会議録からもさまざまに確認でき、取組の実践の様子がうかがえる。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は重大事故の発生や感染症蔓延の防止の徹底など、安全衛生面全般の各種対策にも注力した。上記「評価項目1」に既述の通り、前年度に種々の事故やヒヤリハットが続いたことや、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、感染症対策の重要性が高まったことなどを踏まえ、種々の対策に努めることとした。事業計画には登園時や散歩時等の人数・安否確認や、室内外での保育者・子どもの動きにおける安全面の配慮を徹底するとともに、全職員へのAED・心肺蘇生訓練の実施や、建物・設備等の定期的な点検、事故・ヒヤリハット事例の共有・検証など、例年行う種々の対策を定め、取り組むこととした。

上記に列挙した事業計画上の各種安全対策は、年間を通じて行った。各種の事故・ヒヤリハットは事案の内容やリスクレベルに応じ、フロア・全体の各会議での検証を徹底し、事案ごとに原因・対策を検討して、環境設定や職員の援助等の改善に反映させた。また感染症対策については、子どもへの日々の生活の中での啓発や保護者への周知を行いながら徹底を図り、感染が発生した際には、法人や行政のマニュアル・ガイドライン等に基づく拡大防止対策を講じた。

目標の設定と
取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

経営層は一連の取組は一定の効果に結びついたと考えており、今年度の事業計画にも昨年度と同様の取組・対策を挙げ、引き続き実施している。

また、保育で使用する教具・教材について、形状や大きさなどを考慮し、安全面に配慮して選択・提供することや、それらの物的環境や活動内容が、子どもの発達段階に即しているかといった点にも、これまで以上に目を向け、安全の向上につなげることを目指している。一方で、現場の意識がそうした事故防止の面に偏り、子どもの主体的な遊びと活動の広がりや、集中して遊び込める環境づくりに負の影響が及ぶことのないよう、安全確保に努めながら、成長に資する体験の保障とのバランスも常に考えることとしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
ホームページに、園の基本情報や保育の特徴を掲載している 園のホームページには、所在地・連絡先・定員・保育時間などの基本情報に加え、0・1歳児、2歳以上児それぞれの1日の流れ、年間行事、保育の特徴をわかりやすく掲載している。避難場所や決算書類、自己評価などの運営に関する資料を公開するとともに、法人が大切にする散歩の考え方や実践をまとめた絵本「あのね、さんぽにいったらね」も閲覧可能とし、園の保育観や日常の姿が伝わる構成としている。現在は法人全体でSNS運用を開始しており、今後は各園の保育内容の発信も順次進める予定としている。 多様な機会と媒体を活用し、園の情報をさまざまに発信している 市の入園案内や市・法人のホームページ、園外掲示板など複数の媒体を通して園の情報を発信している。見学等の来訪者に配付するパンフレットも制作され、所在地・連絡先・定員・開所時間などの基本情報に加え、保育理念、保育の特徴、1日の流れ、行事の内容、持ち物、よくある質問とその回答が掲載されている。また地域子育て支援事業として、園庭開放や夏祭りの開放を行っており、園の雰囲気を知ってもらう機会としている。今後は保育体験や育児講座など、地域の子育て世帯に向けた体験の機会の充実を検討している。 園見学を受け入れて、園の保育の特色や環境構成の工夫などを説明している 見学は、電話や都が運営するオンラインサービス「保活ワンストップ」で受け付け、見学者が質問しやすい環境となるよう、1回あたり2家庭程度に限定して行っている。見学時には写真や図・表を用いた説明資料を活用し、法人の理念や「営める」「主体性」「異年齢」を軸とした保育の考え方を丁寧に伝えている。食事場面における喫食の工夫や、子どもが遊びや活動を自ら選べる環境構成、室内階段の活用を通じた危険回避力の育ちなど、具体的な事例をもとに説明している。併せて持ち物やロッカーの使い方、ICTアプリの活用についても紹介している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園前には「入園のしおり」に沿って重要事項を説明し、各種の同意を確認している 入園が決定した家庭に対しては、事前に「入園のしおり」や重要事項説明書、同意書類一式を配付し、通読と記入を依頼している。2月中旬にはオンラインまたは対面による入園説明会を実施し、園の保育の考え方や特色、1日の流れ、年間行事、給食や保健面、体調不良時や感染症罹患時の登園の決まり、延長保育、緊急時対応等について、スライドを用いて説明している。併せて、行事やリズム遊びの様子を動画で紹介し、園生活の具体的なイメージが持てるようにしている。説明と質疑応答を行ったうえで、重要事項のほか、各種の同意を書面で確認している。 子ども一人ひとりの成育歴や健康面の情報などを面談時に把握し、保育開始に備えている 入園時の個人面談では所定のシートを用いて、家庭での生活の様子、健康状態、食事の状況など、子どもに関する情報を保護者から聴き取っている。食物アレルギーや既往歴がある場合には看護師・栄養士が同席し、より詳細な情報を把握している。保護者が提出した「個人調査表」「新入園児食事状況確認書」などの各種書類から、家庭及び就労の状況、子どもの生活リズムや特性、保護者の要望・意向も確認し、記録として整理している。これらの情報はフロアごとの担当間や会議、ノート等を通して職員間で共有し、保育開始後の関わりや配慮に役立てている。 入園直後の子どもの負担や、利用終了後の環境変化への配慮に取り組んでいる 利用開始直後は子どもの不安や緊張の高まりに配慮し、保護者の就労復帰時期や家庭の状況を踏まえながら、個々の様子に合わせて保育時間を徐々に延ばす「慣らし保育」を進めている。登園時間を調整し、少人数で過ごす時間を確保することで、保育者と子ども、保護者が丁寧に取り組める場をつくり、園での生活の様子や少しずつ見られる変化について具体的に伝えている。個人面談や保護者会において、就学に向けた園での関わりや生活の見通しを説明している。また利用終了後にも相談に応じられることを伝え、再訪の誘いを行っている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子ども・家庭の状況を把握する、各種アセスメントの手順が定められている

入園時提出書類のほか、連絡帳や送迎時の聴き取りを通して得た情報を、「受け入れ表」や各階のノート、全員が確認する「コミュニケーションノート」に記録し、職員間で共有している。児童票は年3回更新し、発達の目安に沿って記録している。個別面談は年1回実施するほか、必要に応じて追加の面談も行い、家庭の状況や保護者の意向を把握している。アレルギー児については診断書と個別対応カードをもとに管理し、活動内容に応じた対応を明確にしている。これらの情報をもとに、指導計画や個別配慮に適宜反映させている。

全体的な計画をもとに各期間の指導計画を作成し、見直しの仕組みを整えている

全体的な計画をもとに、年間指導計画・週案を作成し、養護と教育の各領域を踏まえた保育内容に反映させている。各フロアで作成する週案には、戸外・室内の活動、環境構成、援助・配慮を明確にしている。また0～2歳児は個人案を期ごとに作成し、子どもの姿や発達の変化を踏まえて見直している。各計画は周期ごとに評価・反省を行い、次の計画に反映している。子ども一人ひとりの発達の状況は児童票に定期的に記録し、個別の状況の継続的な把握に努めており、保育内容は保護者会や日々のコミュニケーション・発信物等を通じて保護者に伝えている。

記録と情報共有の体制を整え、職員全体での活用にも努めている

子どもの状況はアプリ連絡帳や上記の受け入れ表・各ノート等により、職員間及び保護者との共有を図り、関係職員が常時確認できる体制を整えている。また指導計画には評価・反省を記入し、子どもの変化の継続的な把握に努めるほか、フロア会議・職員会議で、各種業務・行事や子ども・家庭の個別の共有事項を確認し、必要な対策・支援を随時検討している。またトランシーバーを各階に設置し、職員間の連携に活用しており、突発的な事態を含め、日々の現場の状況に迅速に対応できる体制を整えている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
子どものプライバシーに配慮した保育の徹底に努めている 入園時に個人情報に関する同意を得ており、外部との情報共有も必要に応じて適切な手続きを踏んで行っている。着替えの際はロッカーやパーティションで見えにくい環境を整え、カーテンで園外からの視線にも配慮している。また看護師や幼児クラスの保育者が、絵本などを用いて子どもたちにプライベートゾーンに関する話をするほか、水遊びは服のまま行うなど、羞恥心にも配慮している。排せつの失敗の時は静かに片づけてから着替えに向かい、午睡明けの失敗の際には優しく声をかけるなど、子どもの気持ちへの寄り添いにも努めている。 子どもの自己選択や意思の尊重に努め、体質への配慮にも取り組んでいる 法人理念「子どもの最善の利益のために」をよりどころとし、子どもの自己選択の機会を保障し、遊びや過ごし方について子ども自身が選べる環境を整えており、自由に活動できる時間を確保している。発達や子どもの興味など子どもの姿を職員間で共有し、環境構成の見直しや教具の入れ替えを行っている。連絡帳や送迎時のやり取りを通して生活状況を把握し、睡眠や食事の様子を踏まえて食事時間や午睡時間を調整している。体質や食事への配慮が必要な場合には、保護者との面談を重ね、食材や調理方法を確認しながら、給食内容の調整等を行っている。 虐待防止に向けたマニュアルを整え、虐待の防止・早期発見に向けた取組を行っている 虐待防止に向けたマニュアルを整えるほか、関係機関との連携体制も整えている。虐待防止や育児困難家庭への支援に関する理解を深めるため、職員向けの勉強会や研修を継続して実施している。定期的に不適切保育に関する確認を、チェックシートを使って職員各自が行い、日常の関わりや言動を振り返る機会としているほか、職員会議では虐待の定義や発見時の通報の流れを確認している。外部研修に参加した職員には報告書の提出を課し、職員会議ではそれらの学びのほか、日常の関わりの中で見られる、気になる変化や家庭の背景を、職員間で共有している。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評			
業務の標準をマニュアル等に定め、日々の保育や事務業務に活用している 法人共通のマニュアルのほか、園作成の業務マニュアルが整備され、保育における基本事項や手順が明示されている。事務室内には各種マニュアルを常置し、全職員が必要時に確認できる体制を整えており、園作成のマニュアルには、勤務帯別の業務内容、朝夕のやることリスト、「入園のしおり」に基づく保護者対応、アレルギー児・離乳食移行時の留意事項、感染症発生時の書式、SIDSチェックや写真掲載時の注意事項など、日常業務に即した基準を記載している。これらは各階のノートや会議の記録とも連動させ、日々の保育や事務業務に活用されている。			
チェックシートや実技訓練を活用し、業務の標準が現場で実践されるようにしている 業務の標準が現場で実際に活かせるよう、各種チェックシートや実技訓練を採り入れている。「誤嚥等の事故防止チェックリスト」はフロアごとに毎月実施し、食事場面や教具・小物類のリスクを点検している。避難訓練では、地震・火災・不審者侵入など複数の想定を設定し、散歩先への連絡手順や避難場所での配慮事項を確認している。避難時に配慮が必要な子どもの情報共有にはゼッケンを用いるなど、現場で判断しやすい工夫を加えている。また嘔吐処理やSIDS対応は、動画視聴後にシナリオ訓練を行い、実際の動きや役割を具体的に確かめている。			
業務の基本や留意事項を時節や状況に応じて確認し、改善への取組を行っている フロア会議や職員会議では、日々の保育や行事の運営を振り返り、手順通りに進まなかった場面や改善が必要な事項を共有しており、言葉かけの見直し、園庭開放来園者への対応、手洗いの注意喚起など、時節や状況に応じた確認も行っている。また事故やヒヤリハットについては、確認した職員が書類を作成し回覧するとともに、緊急性の高い内容は、口頭や会議の場で注意喚起を行っている。保護者からの意見や問い合わせ、行事後アンケート、意見箱の声は、職員間で内容を検討し、保育実践や保護者支援のさらなる改善の参考としている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している 〇非該当
評価項目1の講評	
子どもの全体的な姿の把握と、それらを踏まえた保育の実践に取り組んでいる 子どもの発達や興味・関心、家庭での様子は、日々の保育の観察や保護者との対話を通して把握し、職員間で共有している。乳児フロア・幼児フロアともに複数担任制を採用入れるとともに、概ね毎日各階で保育者を入れ替えるなど、年齢にかかわらず、複数の保育者が子どもの姿をとらえられる体制を整えている。また後述の工夫により、子どもが自分の好きな活動に没頭できる環境を整え、無理のない発達を支えとともに、発達面等で個別の配慮が望まれる子どもには、必要に応じ保護者とも連携し、園での援助のあり方を検討しながら保育に反映させている。 異年齢保育の中で、主体的な活動を促す環境が構成されている 園庭や保育室内には多様な教具や遊びのコーナーを整え、子どもが自ら興味のある活動を選べる環境構成の工夫に努めている。また乳児・幼児それぞれのフロアでは年齢別の固定担任制を設けず、チームとして子どもを援助する体制とするとともに、必要以上に大人が介入しないことで、子どもが主体的に人・物・場所を選び、異年齢の友達と関わりながら遊びを深めていけるようにしている。異年齢で同じ空間を共有することで、年上児の姿に刺激を受けたり、年下児を気遣う姿が見られるなど、互いを尊重し合う関係づくりが促されている。 子どもの特性や状況に応じた援助・配慮や、小学校への接続の支援に取り組んでいる けんか・かみつ等の子ども同士のトラブルには、保育者は危険のないよう近くで見守りつつ、必要に応じて介入し、気持ちの代弁や仲立ちを行っている。かみつが特定の子に見られる場合は、当該児の様子を丁寧に見守り、発生時には保護者の要望に応じて状況を伝え、かまれた子には帰りに謝意を示すなど、双方に配慮した対応を行っている。就学に向けては、就学支援シートの作成や小学校との連携懇談会への参加、見学の機会の設定、保育所児童保育要録の引き継ぎなどを通して、円滑な接続に努めている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

家庭と園の連携により、子どもの姿の把握に努めている

登園時には保護者から家庭での様子を聴き取り、連絡帳の記載や視診を通して体調・機嫌・睡眠状況などを把握し、「受け入れ表」に記録して職員間で共有している。排せつや食事はチェック表を用いて個々のペースで誘いかけ、おむつ交換ではすぐに替えず、不快感を知る経験も大切にしている。降園時には一人ひとりの生活面や遊びについて、なるべくエピソードを添えて保護者に伝えることとするほか、2歳児まではアプリ連絡帳、全体には写真付きドキュメントを掲示したり、動画配信を通して日常の様子を共有している。

生活習慣の自立を支え、意欲を育てる援助を行っている

基本的な生活習慣の支援は、一斉に行わず、子どもの意思とタイミングを尊重して進めるとともに、「誉める保育」を基盤に、できたことを丁寧に認めることで、主体的な意欲を育んでいる。排せつは個々の発達に合わせて誘いかけ、トイレへの関心や排尿間隔を見ながら無理なく進めている。衣服の着脱では最初の一步を援助し、靴下はシュシュを使った遊びの中で身につけられるよう工夫するなど、生活の中で、子ども自ら意欲を持って習得していく過程を大切に、手洗いは看護師がイラストを用いて指導し、楽しみながら習得できるようにしている。

生活リズムに応じた休息の保障と、安心して過ごせる環境の整備に努めている

休息や午睡は子どもの意思や状態に応じて柔軟に対応しており、基本は午睡の時間としつつも、外遊びを希望する子は外で過ごすことができるようにしている。乳児の午前寝・夕寝にも個別に対応し、SIDS対策として定期的な確認と記録を行っている。また水分補給のためのジャグボトルも常備するなど、安心して過ごせる環境づくりに努めている。子ども一人ひとりの状況は、フロア会議を中心に職員間で情報共有を図り、生活リズムに沿った援助を検討しており、降園時にはその日の様子を保護者に丁寧に伝えるよう努め、家庭との連続性を大切にしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもがそれぞれの興味や発達に応じ、主体的に遊べる環境を整えている

保育室には多様な教具やコーナーを配置し、子どもが自ら遊びを選び、興味に応じてじっくり取り組める環境を整えている。園庭や室内でも、遊びたい場所や一緒に遊ぶ友達を自分で選べるようにしており、環境は子どもの発達や興味に合わせて随時見直している。制作・描画・楽器などの表現コーナーも常設し、英語や歌、会話など講師との関わりを通して多様な表現に触れられる機会を設けている。散歩で拾った自然物を、教具にしたり楽器にしたりするなど、生活と遊びがつながる工夫も見られ、主体的に遊びを広げられる時間と空間を保障している。

子どもの意欲を尊重しながら、集団活動に主体的に関われるよう援助している

幼児フロアには月間予定や当日の活動予定を掲示し、行事前には「お集まり」を行って内容を知らせたり、一部を子どもが選べるようにすることで、活動への見通しと意欲を高めている。パラバルーンや造形、リズム・英語などの活動では、保育者は参加を促す声をかけつつ、無理に誘わず、同じ場にいるだけでも参加の形として受容するほか、集団が苦手な子には得意なことを尊重し、代替案を提示するなど、柔軟に対応している。遠足の行き先を話し合うなど、子ども同士が意見を伝え合う機会も設けており、集団の中で主体的に関わる経験が積み重ねられている。

保育者の応答的な関わりを大切にし、子どもの言葉の力の育ちを支援している

保育者は言葉だけでなく表情や身振りも交えて伝え、子どもが意味をつかみやすいよう配慮するほか、絵本や関連教具を活用しながら、言葉への感覚を育てている。また低年齢児にはすぐに手伝うのではなく、問いかけることで意思表示を引き出すなど、応答的な関わりを大切にし、異年齢の関わりの中で自然に伝え合う姿も見られている。新しい遊びの際には事前にルールを伝え、取り組む中で決まりの大切さを学べるようにするほか、玩具の取り合いでは共感や説明を重視し、学年が上がるにつれ、トラブルも子ども同士に任せるなど、自律(立)を促している。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
評価項目4の講評		
子どもの興味をもとに行事を計画し、主体的な参加を促している 行事は特別なものとしてではなく、日常の活動や子どもの声をもとに計画しており、興味を持って取り組める題材を選んでいる。夏祭りではヨーヨーやスライム作り、子どもたちと作った梅ジュースやポップコーンの提供など、日頃の遊びや経験とつながる内容を探り入れている。「もりんびっく」では子どもたちが万国旗を園と家庭で作成し、親子競技やパラバルーンなど年齢に応じた種目に取り組んでいる。「フェスティバル」ではダンスやオペレッタ、制作発表など、子どもの得意なことを活かした内容を構成し、主体的に参加できるよう工夫している。 子どもたちが協力し、達成感を味わえる行事を、日常の延長として実施している 行事のための特別な練習は行わず、日頃の保育活動の延長として取り組むことで、自然な形で協力や挑戦の経験が積み重ねられるようにしている。もりんびっくでは、年齢に応じた競技を設定することで、無理なく参加できる環境を整えている。またフェスティバルではダンス・オペレッタ・制作発表・大縄など、子どもが得意なことを発揮できる場を設け、友達と力を合わせて表現する喜びを味わっている。餅つきや鏡餅づくりなどの季節行事でも、感触遊びや共同作業を通して、達成感や伝統文化への興味が育まれている。 保護者と連携し、行事への理解と参加を促す工夫を行っている 行事の準備では保護者の負担が生じないよう配慮しつつ、アプリでの情報共有や日常の会話を通して、家庭での話題が広がるよう工夫している。もりんびっくの万国旗作製では、片面を家庭で制作するなど、無理のない範囲で協力を得られる仕組みを探り入れている。また昨年度は任意参加のパン作りの場を設け、希望が多い場合は抽選とし、公平性を保てるよう工夫している。夏祭りやフェスティバルでは保護者から「子どもが楽しそうだった」「友達や先生との関わりが見られてうれしい」といった声が寄せられ、園の取組が家庭にも伝わる機会となっている。		

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

長時間の保育でも、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えている

保育時間が長い子どもが安心して過ごせるよう、夕方はままごとやパズルなど、落ち着いて取り組める遊びを中心に環境を整えている。眠気が見られる子には布団を提供し、横になって休めるよう配慮している。1歳児では体力の状況を見ながら、睡眠リズムに合わせた援助を行い、登園が早い子には午睡へ自然に誘導している。お迎えが遅い子には保育者がスキンシップを図るなど、ゆったり関わることで、情緒の安定を図っている。帰りの時間には「受け入れ表」をもとに職員全員が保護者へ共有できる体制を整え、安心して1日を終わらせるようにしている。

保育形態の変化があっても、子どもが楽しく生活できる工夫に努めている

長時間の保育でも飽きずに過ごせるよう、子どもの姿に合わせて集まりや粗大遊びの時間を設け、同じ場所で遊びが続かないよう環境設定を工夫している。夕方は人数が少なくなるため、異年齢での関わりを自然に楽しめるよう配慮し、好きな遊びを選べる時間を確保している。最後まで残る子には共感的な声かけや好みの遊びの提供により、安心して過ごせるよう支えている。また日々の睡眠では家庭とも連携し、生活リズムに無理が生じないよう調整するなど、生活面の柔軟な対応により、保育形態が変わる時間帯でも、子どもが楽しく過ごせる環境を整えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当

評価項目6の講評

子どもが発達段階などに応じ、落ち着いて食事を楽しめる環境を整えている

子どもが自分のタイミングで好きな席に座り、友達との会話を楽しみながら食事ができるよう、温かい雰囲気づくりに努めている。配膳台では職員が目の前で盛りつけ、子どもが食べたい量を伝えられるようにしている。足が届かない子には踏み台を用意し、具材が混ざらないよう小皿を多く使用するなど、安心して食べられる工夫がなされている。食べる順番や食具の使用にもこだわらず、手づかみもできるようにし、まずは食べる喜びを味わえるようにしている。また、ひらがなの献立表を掲示し、子どもが見通しを持って食事に向かえるよう配慮している。

子どもの興味や発達に応じた食事内容と調理方法の工夫に努めている

日々の給食には季節の食材や郷土料理を採り入れるなど、味覚の幅が広がるよう工夫し、子どもの食べ具合やリクエストを反映したリクエスト献立も実施している。また給食会議では栄養士や委託業者と情報を共有し、メニューを柔軟に変更している。ご飯はおひつからよそい、温かさを保ち、おいしく食べられるよう配慮するほか、年中児のクッキングで行った「シャカシャカジャガイモ」では、箸の使い方も併せて指導するなど、食具の使用も発達に応じて支援している。離乳食は段階的に提供し、食札を付けて提供時の担当もわかりやすいようにしている。

食物アレルギーへの対応の仕組みを整え、食育活動を通して食への関心を育んでいる

アレルギー児には写真と除去カードを配膳台に掲示し、誰が見てもわかる体制を整えている。食育では夏野菜の栽培やシイタケの栽培・収穫を行うなど、食材に触れる体験を大切にしており、クッキング活動は行事計画書で準備物や流れを明確にし、評価・反省も行っている。遠足ではおやつを購入する経験を採り入れ、地域の商店を活用して食材を買いに行くなど、生活と食をつなげる取組を行っている。食育便りやレシピ配信を通して、家庭との連携も図っている。

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当
評価	標準項目												
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当											
	評価項目7の講評												
	子どもが自分の身体の状態に気づき、健康を意識できるよう、保健指導を行っている 手洗いは、一緒に洗いながら手順やコツを伝えるところから始め、自分で行えるようになった段階で、正しい手順を思い起こせるよう、手洗い場にイラストを掲示している。咳エチケットや鼻のかみ方は、日々の生活の中で必要に応じて伝えている。水分補給は子どもの様子を見て促すほか、自由に飲めるようジャグボトルとコップを用意しており、食後は鏡とウエットティッシュを用意し、口周りを整える行動が身につくようにしている。プライベートゾーンは、子どもの関心や場面に応じて話題に採り上げ、自分の身体を大切にする意識につながるよう指導している。 さまざまな安全指導を通じ、子どもが危険を予測し、安全に行動できるよう支援している 子どもが危険を予測し、安全に行動できるよう、安全指導を行っている。散歩時には公道の歩き方などの交通ルールや、周囲の確認の仕方を繰り返し伝えている。園庭の固定遊具の遊び方や水遊びの注意点のほか、はさみや調理器具などの危険を伴う道具の扱いについては、手順と注意点を示している。安全の意識を高め、知識を教えるこれらの指導を行う際には、理解しやすくするため、クイズを採り入れたりするなどの工夫をしている。また避難訓練後には内容を振り返る時間を設け、地震・火災・不審者など想定に応じた行動の要点や姿勢等を再確認している。 子どもの健康や安全を維持するためのさまざまな取組を行っている 入園時には、提出書類や面談を通して、子どもの健康状態や体質等を確認している。日々の健康観察は家庭からの健康情報と登園時の視診をもとに行い、毎月の身体測定と併せて、乳児健診は毎月、1歳以上は年2回の嘱託医による健康診断及び歯科検診を実施している。猛暑時の外出自粛、SIDSチェック、アレルギー対応、嘔吐処理訓練などを行い、子どもが安全に過ごせるよう環境整備と安全・衛生対策を継続している。保護者には入園時に保健面に対する決まりを説明し、感染症発生時には、配信や掲示を通して状況を伝え、注意を呼びかけている。												

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当

評価項目8の講評

保護者の就労と育児の両立支援と、育児の参考となる情報の提供に取り組んでいる

就労や家庭状況に応じて園生活を無理なく続けられるよう、保育者が生活面の負担を軽減する仕組みを整えている。おむつは任意でサブスクリプションサービスを利用可とし、延長保育は当日の申し出にも対応している。土曜保育は原則1週間前に締め切るが、急な就労時には給食委託業者と調整し、受け入れている。育児講座やお便りでは、園での関わりや発達のとらえ方を紹介し、家庭での関わりを考える材料としている。育児の参考となる情報に関する、行政や業者が発行する印刷物を、保護者が手に取れるよう設置するほか、絵本の貸し出しも行っている。

家庭同士が話題や経験を共有できるよう、交流の場を設けている

家庭同士が話題や経験を共有できるよう、交流の場を設けている。保護者会と同日に実施する懇談会では、事前のアンケートから決めた話題について、保護者同士が懇談する時間を設けており、保育者が進行役となって、意見や悩みを出し合えるよう援助している。また「もりんびっく」や夏祭りでは、親子で同じ活動を体験できるようにしている。育児講座も年1回開催し、今年度は「素敵な親子時間を過ごしたいあなたへ」のタイトルで講演を聴き、砂絵のワークショップを楽しむなど、保護者同士が顔を合わせ、ともに時間を過ごす機会となっている。

子どもの成長をともに喜び、共通認識を持てるよう、保護者に子どもの様子を伝えている

園と保護者が子どもの成長をともに喜び、共通認識を持てるよう、子どもの様子を伝えている。降園時にはその日の出来事や生活の様子を、できる限りエピソードを添えて話すようにしている。個別面談では園での姿や成長、子どもへの関わり方の意図や配慮を説明し、家庭での様子も聴き取っている。「公開日」は毎月実施し、保育室での過ごし方や職員とのやり取りを観察できるようにしている。年2回設ける保護者会では、年度前半では活動の予定のほか、発達の特徴や成長の見通しを、年度後半には子どもの成長の姿や次年度への見通しを伝えている。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 85%;">標準項目</th> </tr> </table>	評価	標準項目
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 85%;">1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">〇非該当</td> </tr> </table>	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	〇非該当
1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	〇非該当		
☒ あり ☐ なし	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 85%;">2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">〇非該当</td> </tr> </table>	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	〇非該当
2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	〇非該当		
	評価項目9の講評		
	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるようにしている 地域の公園や商店、公共施設などを保育環境の一部として位置づけ、園内では得にくい体験につながる外出や活動を採り入れている。散歩では近隣の公園に出かけ、自然物や遊具に触れる機会となっているほか、園内に飾る花を花屋へ子どもと一緒に買いに行き、季節や色、香りへの関心が広がるきっかけにもなっている。食育活動ではスーパーでの買い物や、制作に使う素材を百元ショップで選ぶ経験もしている。さらに法人バスを活用した園外活動では、子どもの興味や希望をもとに行き先を検討し、遊びや学びの広がりにつなげている。 園行事や日常の活動の中で、職員以外の大人と接する経験を重ねている 園行事や日常の活動の中で、職員以外の大人と接する経験を重ねている。夏祭りや園庭開放では、地域の子育て世帯や小学生が来園し、年齢や立場の異なる人との関わりを持っている。ハロウィン行事では、隣接するグループホームや近隣の消防署を訪問し、挨拶ややり取りを通して、地域の人と顔の見える関係が生まれている。また、造形活動やオペレッタ、英語活動では外部講師が来園し、多様な素材や表現に触れながら、大人との関わりを経験している。中学生以上の職場体験や実習生の受け入れも、年齢の異なる人と接する機会となっている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	子どもの特性や意欲を尊重し、選択と体験の機会を保障する保育を行っている	
内容①	子どもの体質や特性を把握し、食物アレルギーへの対応や発達特性に応じた援助に努めるほか、子どもが興味のあることに取り組めるよう、教具や道具は自由に使える状態で配置し、適切性を定期的に点検している。また集団活動への参加が難しい場面では気持ちを受けとめ、活動への自発的な参加を重視し、無理に強いることはせず、興味を引き出す工夫や、体験を保障する援助を行っている。食事・排せつ・睡眠などの生活面においても、それぞれの生理的欲求や意欲を尊重し、食事は所定の時間内であれば、自分で食べたい時に選択できるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	実践を通じて法人の保育や子どもの多様な育ちを学ぶ機会が、多様に設けられている	
内容②	法人の保育の柱である、子どもを認め、「誉める」ことを大切にした関わりについて、系列及び提携園との間で保育者が行き来し、視察と話し合いを行う研修が設けられるほか、系列園から主任保育士が来園して保育を行い、当園の保育者が観察したり、ともに実践したりし、その後の意見交換と併せて知見や技術を高める研修も行われている。また1階の乳児と2階の幼児で毎日1名を入れ替えて配置し、それぞれ担当外のクラスで子どもたちに関わることで、育ちの多様性に触れ、気づきを得たり、互いのクラスの業務の流れなどを知ったりできるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	マニュアルを整備して業務の基準を示し、対応訓練を行い、手順の定着を図っている	
内容③	法人共通のマニュアルや行政のガイドライン等をもとに、保育・事務業務の基本事項や手順を明らかにするほか、勤務時間帯別の業務内容やアレルギー児・離乳食移行時の留意事項、感染症発生時の対応など、日常業務に即した基準を、園作成のマニュアルに定めている。また新人には「スタンプラリー」を通して、基本業務を一つずつ確認できるようにしている。毎月の避難訓練や誤嚥防止のチェックリストによる点検のほか、嘔吐処理やSIDS対応では、動画視聴やシナリオを用いた実技訓練も実施するなど、安全面の手順の共有と定着にも努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの存在を尊重し、「誉める」保育と主体性を育む環境づくりを通して、一人ひとりの発達と意欲を大切にした発達援助を実践している
	内容	子どもの存在そのものを大切にする「誉める」保育の丁寧な実践に努め、「できた」だけを評価するのではなく、名前を呼ばれ返事をした瞬間にも拍手で応えるなど、一人ひとりが認められる関わりが日常的に行われている。また、大人がさせるのではなく、子どもが意欲的に取り組む姿を尊重し、個々の発達に応じた援助を重視している。掲示物には写真や作品が飾られ、作品名も子ども自身が付けるなど、主体性を尊重する工夫がさまざまになされるほか、誕生日には自作のケーキを入口に飾り、一人ひとりが大切にされていることを実感できるようにしている。
2	タイトル	異年齢の関わりを基盤に、子どもが学び、認め合いながら、豊かな人間関係と主体性を育める環境づくりに取り組んでいる
	内容	異年齢の関わりを大切にし、0・1歳児、2歳以上児が同じ空間で生活することで、互いに刺激し合い学び合う環境を整えており、年上児が年下児の世話をしたり、年下児が年上児に憧れを抱くなど、自然な関係性の中で豊かな人間関係が育まれている。また、活動に応じて同年齢で遊ぶ機会も確保され、子どもが自ら選択できる環境が用意されている。棚にはさまざまな教材が並び、興味に応じて選べるよう工夫されている。また、1歳児が幼児フロアで、2歳以上児が乳児フロアで過ごすこともあり、各部屋の前では子どもの居場所を確認できるようにしている。
3	タイトル	幼児期の食習慣の形成を重視し、献立の工夫や栽培・調理体験を通して食への興味と心地よい食環境づくりに取り組んでいる
	内容	幼児期の食習慣の形成を大切にし、野菜を意識的に採り入れた献立や、苦手な子どもも少しずつ挑戦できるような工夫が行われている。配膳は保育者と子どもが1対1で会話をしながら進められ、安心して食事に向き合える環境が整えられている。また、プランターで季節の野菜を栽培するなど、食材への興味や親しみを育む取組の充実にも努めている。献立表はひらがなで表示され、子どもが自分で読める工夫がされているほか、おかずの味が混ざらないよう小皿を用いるなど、細部にわたる配慮が見られる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの心身の育ちの状況を、保育だけでなく、食事や健康の視点からもとらえ、最適の支援を行う、職種間の連携を深める工夫を期待したい
	内容	日々の生活や遊びの援助・環境の設定、発達の確認や個別計画の作成は、主に保育者が担っており、看護師は健康状態や体格的な発育の様子を確認し、栄養士は食事や食育活動に関わっている。子どもの心身の育ちを、生活や遊びに加え、食事や健康の視点からもとらえるうえでは、保育・看護・調理がそれぞれの立場で把握している、日々の様子や気づきを共有する仕組みの充実も期待したい。遊びの内容のとらえ方や食事の提供面での声のかけ方、体調変化に対する見立てなどを伝え合うことで、日々の援助や支援の質もより高められるのではないだろうか。
2	タイトル	地域の未就園世帯への支援の拡充や、地元のコミュニティとの交流の促進について、現有の取組も活かしつつ検討を進められたい
	内容	園周辺の保育所等を利用していない親子向けに、土曜日の園庭開放を8月から毎月行っており、一定の利用も得られているほか、夏祭り行事の開放も行っている。未就園世帯のみならず、地域のコミュニティとの結びつきをより深めてゆくことを課題と考えており、すでに交流のある近隣の消防署や介護施設との交流の活性化をはじめ、今後の取組を模索している。また未就園世帯にも、保護者向けに行っている育児講座に招いたり、室内開放や保育所体験等の機会を設けるなど、現有の取組も活かしつつ支援の拡充を図り、認知を高めてゆくことが期待される。
3	タイトル	園の考え方などを保護者に思い起こしてもらおうよう、アンケートの問いの立て方などに工夫を講じることとも一考されたい
	内容	各行事では法人の理念等も踏まえ、体験させたいことや、育てたい子どもの姿が想定されており、保護者参加の行事の後にはアンケートを実施し、寄せられた感想や意見を次回の参考としている。アンケートには、行事への取組を通して子どもがどのような経験を重ねたか、行事のねらいへの保護者の理解や、家庭で見られた子どもの様子の変化などを尋ねる設問も設けることで、保護者が子どもの様子を思い返し、園が大切にする視点を改めて意識してもらうことも可能ではないかと思われる。そうした視点で、問いの立て方などに工夫を講じることとも一考されたい。